

# 令和元年度 学校評価シート

青梅市立新町中学校

## ＜学校経営方針の重点＞

1 学力の向上      2 思いやり、規範意識、社会貢献の態度の育成      3 健康・安全な学校      4 地域・保護者との連携

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	分析結果	改善策	学校運営協議会委員からのコメント	評価
学力の向上	○主体的に学び、学習する生徒の育成 ○生涯学習の基礎を育成	・基礎的・基本的な知識・技能の定着と学んだことを活用する力を育成する。 ・「ほめる・はげます・考えさせる」に重点を置き、学習への意欲を高め生涯学習の基礎をつくる。	・良好な学習環境を維持していくため、チャイム着席・発言・発表、聞く態度を改善していく。青梅市のステップアップクラス、スタディアシスト事業の活用を図る。	2.9	・ステップアップクラスは調査前以外は人数が集まらない。 ・スタディアシスト事業も応募者が少なく、参加者も後半になると減少する。	・三者面談等を利用するなど広報活動については十分に行われている。試験前の回数を増やす等の対応を検討していく。	・授業公開では、いつも規律を守り取り組む様子が見られるが、自発的に挙手をする生徒は少ないように感じた。 ・特別支援教室の開室に伴い、そちらの指導についても充実をお願いします。 ・学習環境はよいと思います。	3.4
			・言語活動を通して学んだことを活用する授業を実践して学習意欲を高めていく。(体験、学びあい、発表等の機会を増やしていく。)	3.0	・各教科で話し合い活動や発表の機会を増やし、学んだことを活用する取組を行っている。	・授業公開時等に生徒作品の掲示を行っているが、今後も継続して意欲の向上につなげていく。	・体験や発表はよいことなので、積極的に進めていただきたい。 ・学校公開等の時など掲示物等はいつも整っている。	3.6
健全育成	○思いやり、規範意識、主体的に社会に貢献する力の育成 ○健康で安心・安全な学校生活の実現(いじめ、不登校の未然防止)	・学校行事・特別活動を通じた人間関係づくりと社会に貢献する力を育成する。 ・健康教育、安全教育の充実を図り、危機回避能力の育成を行う。	・学校行事での人間関係づくりと校内、校外のボランティア活動等による社会貢献の態度を育成する。(生徒の活躍の場を積極的に設定する。)	3.6	・生徒数の減少とボランティアの必要数の不均衡もあり、新たな活動は難しい状況にある。	・受け入れ団体に活動の趣旨について理解を求め、活動の質的向上を図っていく。	・メール配信等でボランティアや校内での様々な取組を見ているが、大変すばらしいので、継続的に活動をお願いしたい。 ・他校でもボランティアを始めているので、他の手本となる学校を目指してほしい。	3.8
			・日頃から生徒理解に務め、いじめ・不登校等への早期対応を行なう。また、大学と連携した不登校生徒の居場所づくりを推進していく。	3.3	・毎日登校できる教室を設けて居場所の確保はできているが、不登校の状況は様々で完全には対応できていない。	・これまでの対応を引き続き行い。さらに、家から出られない生徒への対応について、関係機関との連携を強化していく。	・不登校生徒への対応も積極的に取り組んでいる。 ・不登校の人数が多いのが気になる。不登校対応に十分に努力しているようなので、引き続きカウンセラー等を活用して行ってほしい。	3.4
			・健康、交通安全等の情報発信、情報モラル教育等のセーフティ教室の実施、不審者情報等の発信を行い意識を高めていく。	3.2	・安全指導については継続的に取り組んでいる。特に SNS 利用の問題点について生徒・保護者の意識を改善していく必要がある。	・保護者対象の啓発活動を強化する。 ・来年度、スタントマンによる交通安全教室を実施する予定である。	・今問題の「歩きスマホ」、自転車の乗り方も積極的に指導してほしい。 ・スタントマンによる交通安全教室を行うことも考えられる。	3.0
			・教育活動の積極的な公開と地域・保護者が教育活動にかかわる体制づくりを行なう。	3.5	・メール配信はほぼ定着して、PTA からの発信も始まり、登録者も増加して機能している。学校生活の様子についても、様々なメディアで発信している。	・学校の電話連絡網を廃止してメール配信による連絡網にして、メール配信を一層進め、教育活動に対する理解と協力を求める。	・様々なメディアで情報発信ができています。今後も地域・保護者への理解を深めるために活用してほしい。 ・PTAからのメール発信も始まったので、更に活用してほしい。	3.8
・生徒のスポーツニーズに対応した適正な部活動の実施、効率的な教育活動、勤務時間に対する意識改革を進めていく。	3.1	・部活動についての保護者の考え方は多様であり、個別の対応は非常に困難な状況にある。学校外の団体等とのすみ分けを進めていく必要がある。	・学校規模の縮小に伴い部活動の統廃合、他校との合同チームなどの検討を計画的に進めていく。また、部活動指導員の確保も進めていく。		・部活動の問題については、全市的な問題でもあり、様々な形態について考えていく必要がある。 ・中学校時代は体力の基礎づくりに役立つ時なので部活動、スポーツは重要である。 ・教員の負担の軽減とのバランスもとって実施してほしい。	3.0		

※ 評価は、学校で行った内部評価と学校運営連絡協議会委員（5名）の方から寄せられた評価です。

評価は4段階評価です。      ( 4 よくできている      3 できている      2 改善が必要である      1 大いに改善が必要である )